

4月20日に三陸沖で発生したマグニチュード7.7の地震について

20日16時53分、三陸沖(岩手県沖)でマグニチュード7.7(気象庁暫定値)が発生し、津波警報が発令されました。この地震の発生に伴い、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表されました。

この注意情報は昨年12月にこの仕組みの運用が開始されてから最初に発表され、今回が2度目となります。この情報の意味はまだ世の中には周知されていない事が各種メディアのアンケートでも明らかとなっています。

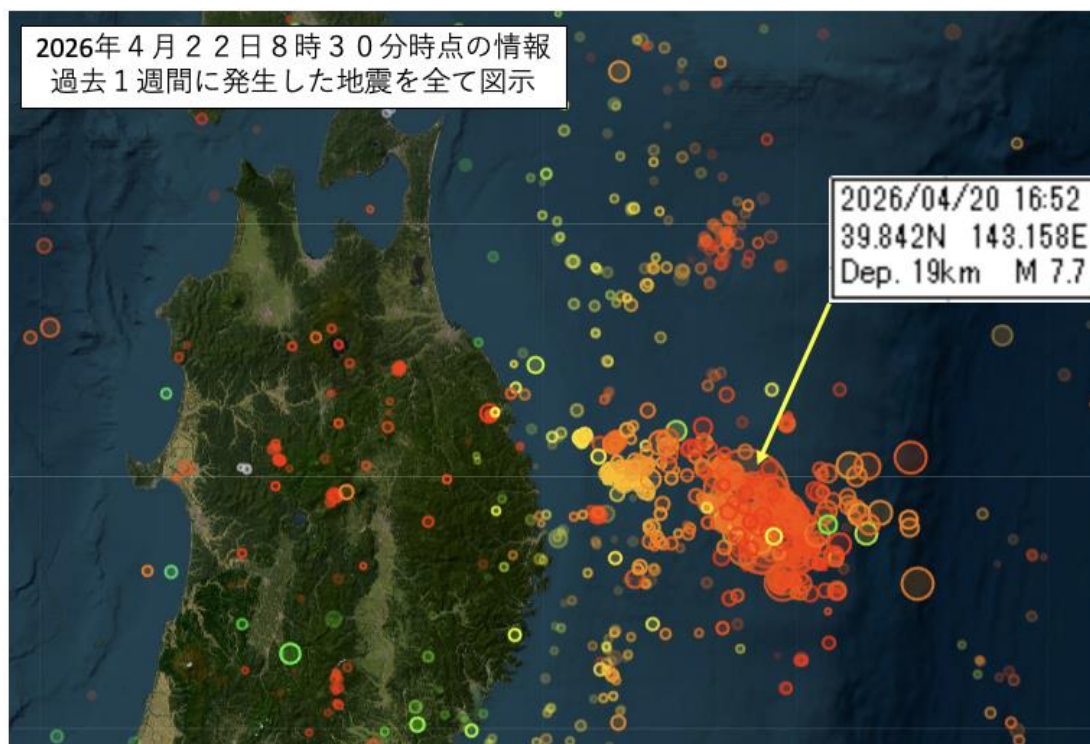
「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について気象庁は以下のように説明しています「千島海溝・日本海溝沿いの領域で規模の大きな地震が発生すると、その地震の影響を受けて新たな大規模地震が発生する可能性が相対的に高まると考えられています(先に発生した地震を先発地震、これ以降に引き続いて発生する地震を後発地震と呼びます。)。このため、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の巨大地震の想定震源域及び想定震源域に影響を与える外側のエリアで Mw7.0 以上の地震が発生した場合に、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。」

重要な点はこの注意情報は何か地下で異常が観測されたのではなく、想定した地域(領域)で、一定程度以上の地震が発生した場合に、**機械的に発表される情報**であるという事です。

また、この情報は**1週間の間報道**が行われる事になっています。1週間後に解除されるのではなく、広報活動を1週間行うという決まりになっています。

ちなみにこの「1週間」というのは、科学的な根拠により決められたものではなく、南海トラフ臨時情報と同じく、アンケート調査から決められた社会的な条件なのです。つまり緊張感の持続期間として1週間が限度であろうという事から決められた期間なのです。

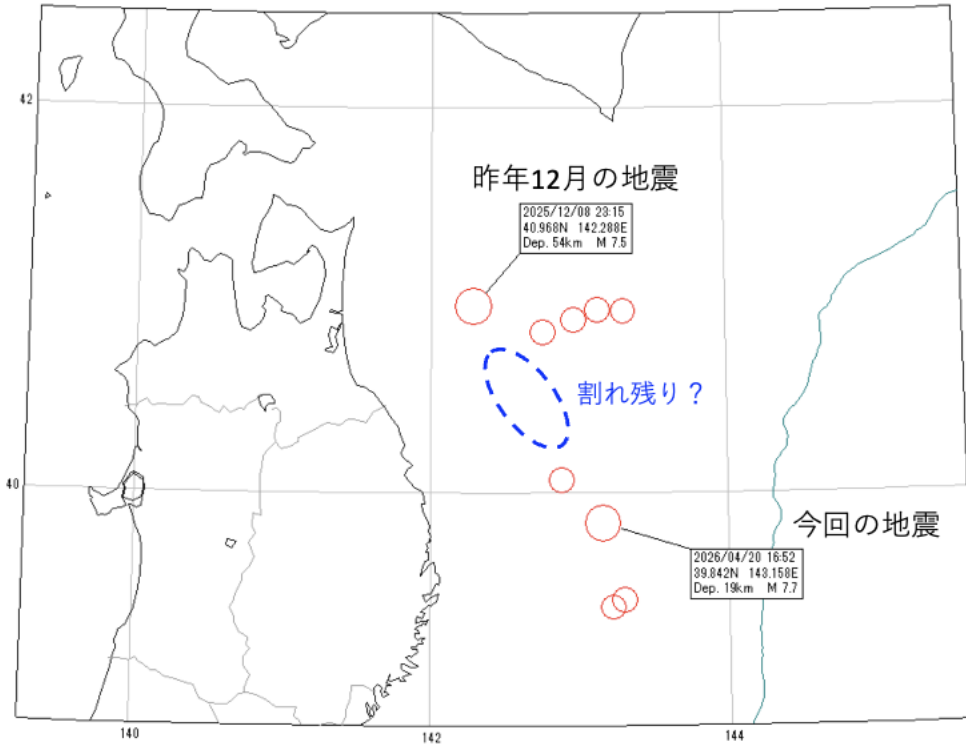
当初この地震は「マグニチュード7.5、深さ10km」と発表されました(速報値)。そのため DuMA/CSO もインターネット番組の中で、「沈み込み帯の地震ではあるが、もしかすると能登半島地震のようなプレート教会の地震ではなく、海域の活断層の地震の可能性もある」とコメントいたしました。その後、マグニチュードは7.7、深さも19.4kmと修正され、地震のメカニズムも逆断層型である事が判明し太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である事がわかりました。





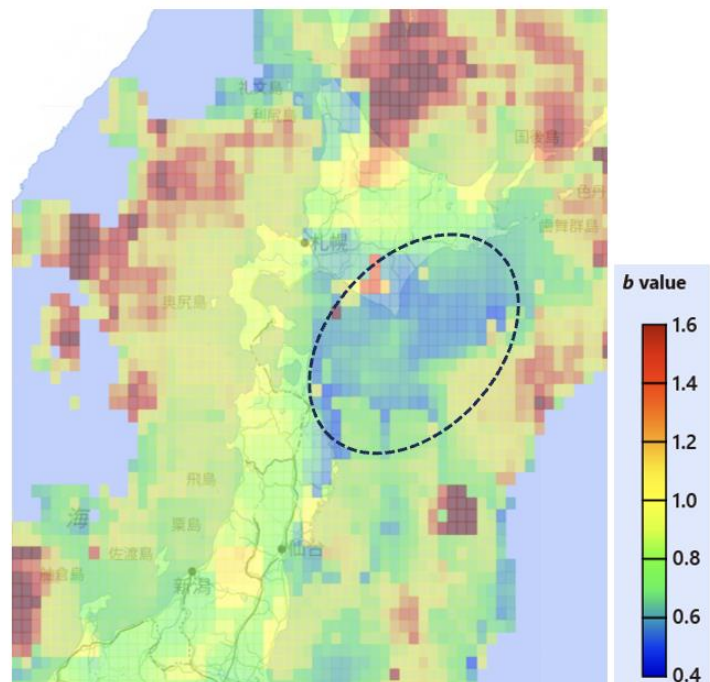
次にお示しする図は 2025 年 12 月 1 日以降に発生したマグニチュード6以上の地震です。昨年12月の地震というのが、昨年の「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発令の原因となった地震です。

2025年12月1日以降に発生したマグニチュード6以上の地震



現在地震学的に危惧されていますのが図中の点線で囲った領域で同程度の地震が発生する可能性です。ただこれは「後発地震」ではなく、4月20日の地震と同程度の地震と考えられ、いわゆるマグニチュード9クラスの地震ではありません。

DuMA では2026年3月2日および16日のニュースレターで**b値解析**というものを紹介し、北海道沖で歪が集中している事をお伝えしました。現時点で後発地震として M9クラスが発生する場合にその可能性が高いのはこの北海道沖と考えています。



参考:3月16日の図の再掲(右図)

黒点線で囲った領域で歪が相当程度蓄積しており、東日本大震災の前と同じような状況と考えられる